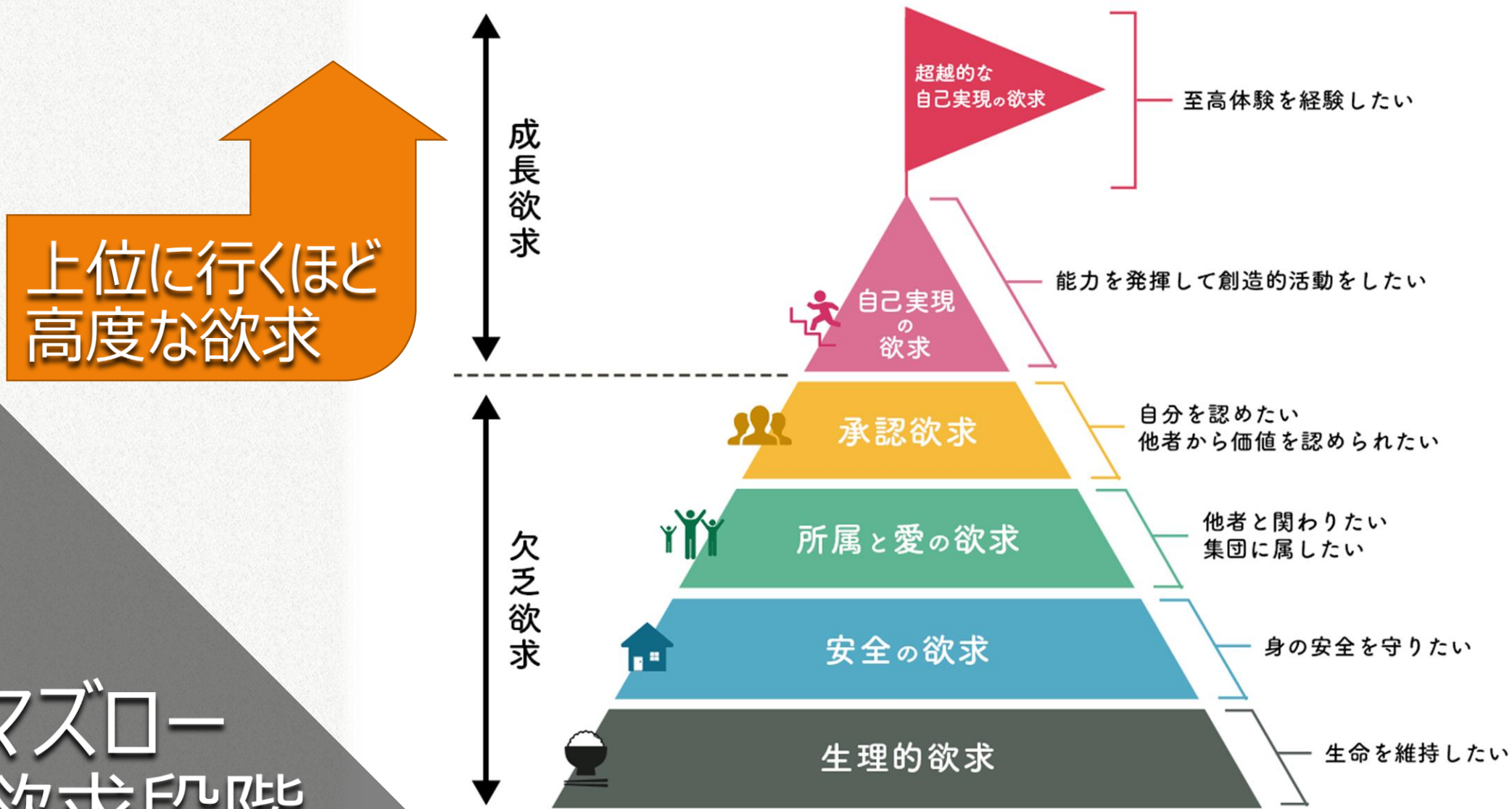




# 認知症クライアントとマズロー心理学

# マズローの欲求5段階説



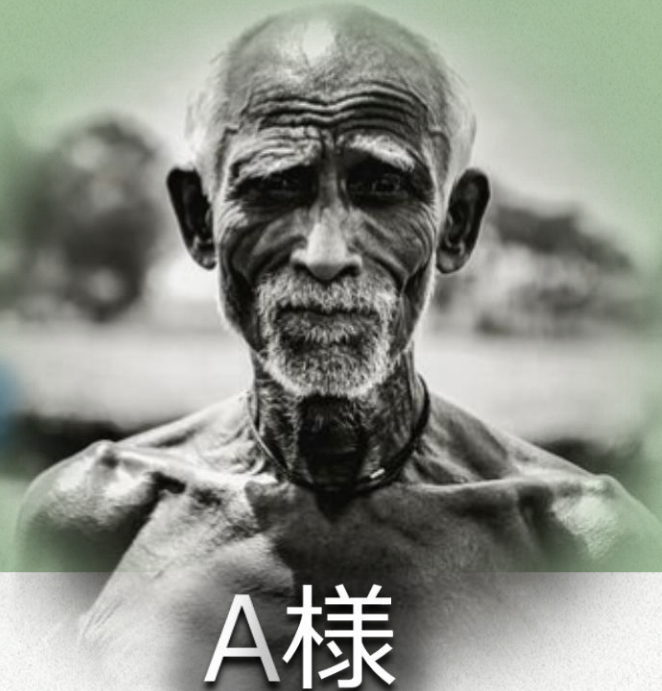
マズロー  
欲求段階

# 事例紹介

多発性脳梗塞  
低ナトリウム血症  
アルツハイマー型認知症  
パーキンソン症候群

80歳代前半 男性

焦燥感, **徘徊**,  
帰宅願望, リハビリ**拒否**  
見当識障害, 理解力低下  
HDS-R 15/30 点



A様

易疲労性著明  
独歩ふらつき著明  
構音・嚥下機能障害  
心疾患による息切れ

※写真はイメージです

# 現病歴



X-2年) 冠動脈バイパス術施行.

X-1年4カ月) 脳梗塞によりパーキンソン症候群 (呂律・歩行障害) が出現.

X-3ヶ月) 意識障害にて救急搬送. 前月からの段階的な脳梗塞の疑い.

X-1カ月) 自宅退院となる.

**X年)** 意識障害があり救急要請, 低ナトリウム血症と診断され**入院**.

X+5日) リハビリ開始するも本人強い**拒否**あり, 1ヶ月半で初回・退院時評価のみ介入.

X+1ヶ月半) 自宅退院となりリハビリと入浴目的で**通所リハビリ**利用開始となる.

# 施設生活

～介護士より～



- ・集団体操中は参加していただけるが、待機や休憩中は席を立って徘徊してしまう。
- ・レクリエーションなど余暇活動に無関心で、好みを示したり自己選択はしてくれない。
- ・入浴待ち時間(午後)は「車まだ～」 「荷物～」と帰宅願望あり。
- ・気付くと玄関まで徘徊してしまうが、玄関椅子でずっと送迎車を待っている。
- ・お風呂場面は介護依存気味だが、指示により更衣や入浴は軽介助で出来ている。



# 施設生活

～リハビリより～



- ・「リハビリに行ってもいいですか？」と声を掛けて誘うも「リハビリ？ いや」と消極的.
- ・リハビリ時は努力的な運動やストレッチで疲労や痛みが出現すると「もう終わり」と中断.
- ・静的訓練メニュー中や休憩途中で「もう戻る」とデイケア室へ.
- ・参加意欲は不安定. リハビリ時間は5分程度しか介入維持ができなかった.
- ・会話では単語レベルで返答. OpenQには沈黙か「わかんない」と返答.



# 観察ポイント



- ・リハビリや集団体操など，体を動かしている最中は作業参加出来ている。
- ・認知症状として，理解力低下，徘徊，焦燥感，帰宅願望が見られている。
- ・疲れやすく，活動意欲が低く，作業参加への興味関心は乏しい。
- ・好みを示すなどの自己選択場面が極端に少ない。
- ・待機時間や休憩時間を待ってられない。

リハ拒否

焦燥感

帰宅願望

徘徊

超越的な  
自己実現の欲求

自己実現  
の  
欲求

承認欲求

所属と愛の欲求

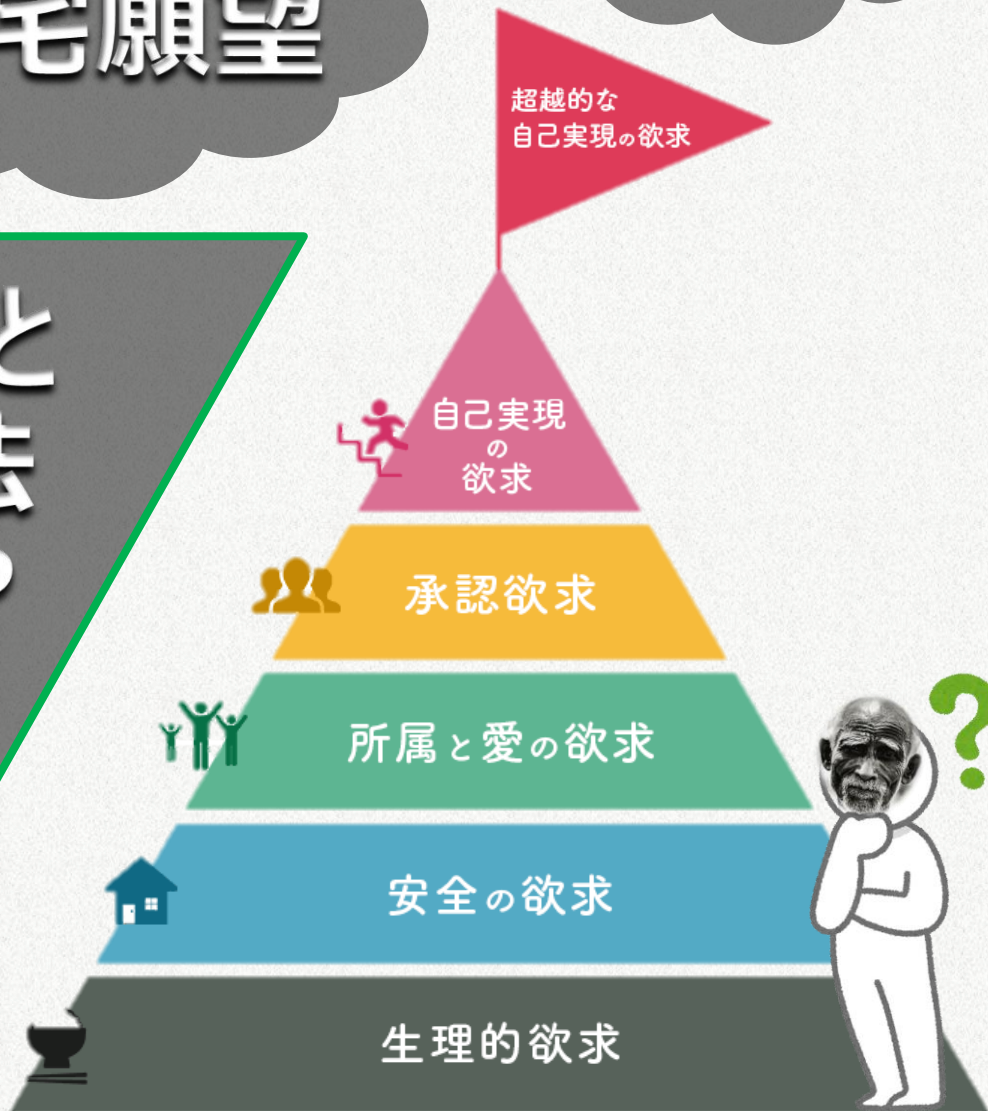
安全の欲求

生理的欲求

その理由と  
介入方法  
どうする？

マズローの  
欲求段階は  
どこに属している？

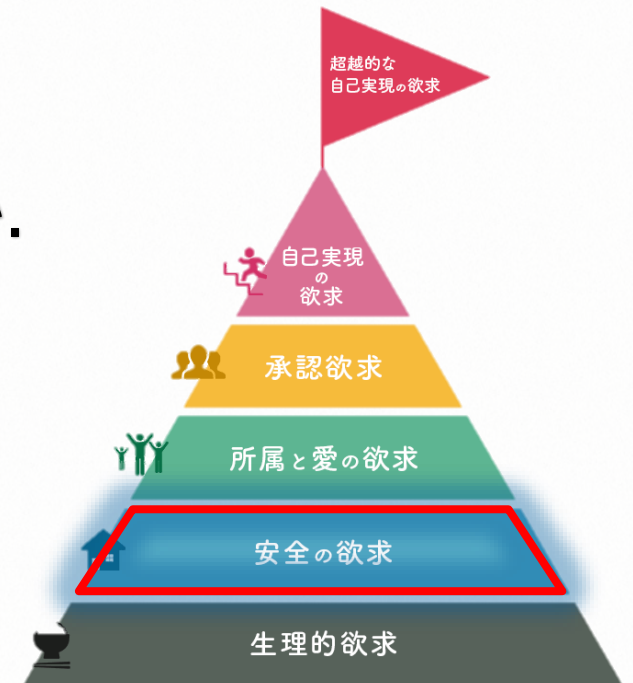
グループ  
ワーク





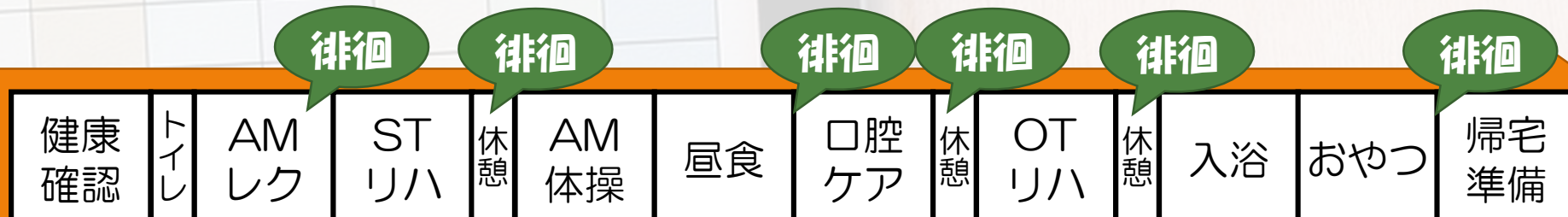
- ・見当識・理解力低下により，待機や休憩などの静止空間に意味づけが出来ず不安に？
- ・「次の予定が分からない」「送迎車に乗り遅れないか」という心理により不安に？
- ・不慣れな環境で不安になり焦燥感が助長され，「安全な家に帰りたい」→帰宅願望出現
- ・よって，**安全欲求** が満たされていない可能性が高いと推測。
- ・そのため，ストレスを感じる活動からは逃避傾向があるのではないか。
- ・さらに，認知症で意欲減退して自己表現が苦手なのではないか。

OTリズニング



# ルーティーン 大作戦

- ・機能面に焦点を当てるのではなく、**不安の解消** と **作業参加** に着目
- ・スケジュールの空白が平均的になるように **提供サービスの時間を調整**
- ・本人の話を否定したり，訂正はせず，**徘徊は止めない**



※時間割例

# 介入戦略

## ・待機時間や休憩時間は期限を明確にしよう！

→「砂時計が落ちるまでね」「女性がお風呂出るまでね」「SpO2が97%になるまでね」

## ・安全に徘徊してもらおう！

→起立見守り・歩行見守り・着席誘導しやすいよう，席から玄関までの動線を環境調整

→玄関前事務職員に見守り協力要請，「次の予定があるけど戻らなくて平気？」と誘導

## ・本人のやりやすいようにリハビリ提供しよう！

→「Aさんの順番になりました」「リハビリの時間なので移動します」と選択肢を減らして誘導

→テンポよく，低負荷で，本人のペースを見ながら，徐々に長く・多くしていく。

## 介入経過

- ・リハビリ職員を注視するようになり、拒否はなく**毎回参加**してくれるようになった。
- ・「まだ～」と催促はあるが、説明をすると**待機**や**休息**を**維持**できるようになった。
- ・日常的な徘徊により、持久力は向上して結果的に**身体能力**が改善した。
- ・会話での**語彙が増え**、質問をしたり、他利用者の名前を呼ぶようになった。
- ・行動パターンが予測できるようになり、職員からの**不満が減った**。

# 介入結果

- ・リハビリやレクなどの**活動量が安定**し、歩行能力・易疲労性は改善した。
- ・家族から、他サービスは依然拒否傾向が強いものの、当デイケアに関しては**自ら**身支度をするようになり、帰宅後も「**楽しかった**」と答えるようになった。
- ・認知症他CLの徘徊時に、「Bさん立ったよ」とスタッフを**助ける**一面が現れた。
- ・職員が「**かわいい**」と**個性**を捉えるようになり、**所属感**が増した印象となった。

## まとめ

- ・本事例では**マズローの欲求段階**を活用することで、認知症CLの評価とリーズニングを深めることに有用であった。
- ・安全欲求の充足に対して介入を行ったことで、スタッフなどの他者との交流に繋がるような行動が見られ、**所属と愛の欲求**の上位欲求に移行していった。
- ・認知症CLを理解し、チームで共有して介入をすることでCL自身だけでなく職員のストレス緩和にも**結果が波及**していった。